

しまったことは残念であるが、滞在中に得られた知見や人的ネットワークを当研究所での今後の研究活動に生かしていきたい。(余田翔平 記)

国連アジア太平洋統計研究所 (SIAP) ウェビナー

2020年8月20日(木)に、国連アジア太平洋統計研究所(SIAP、千葉県千葉市)が「新型コロナウイルス感染症死亡率測定に関する挑戦 Challenges of measuring the mortality of COVID-19 Pandemic」と題するウェビナーを開催し、米国ランド研究所のラファエル・ヴァルダバス(Rafael VARDAVAS)教授、バーモント大学サラ・ノワク(Sarah NOWAK)准教授、SIAP李銀求(LEE Eunkoo)氏と筆者が、米国、韓国、日本における新型コロナウイルス感染症の死亡統計に関して報告を行った。

進行中の感染症の致死率や死亡率は様々な要因により影響を受け、その把握が難しいが、韓国ではこのウェビナー直前に、週別の死亡数が公表されるようになり、それをういた地域別や年齢別の超過死亡についての解説があった。新型コロナウイルス感染症も当初の想定に反して長期化しており、各国のデータに対する取り組みも変化してきているようである。(林 玲子 記)

日本行動計量学会第48回大会

2020年9月1日(火)～9月4日(金)に早稲田大学戸山キャンパスで開催予定であった日本行動計量学会の大会は、対面開催が中止となり、チュートリアルセミナー、シンポジウム、基調講演のみがPDF資料の配信やウェビナーで行われ、口頭発表、ポスターセッション、ラウンドテーブルについては、登壇予定者が参加費を支払い、抄録を提出した場合には、抄録集に掲載した内容を大会にて「発表したもの」とみなされることになった。筆者は、岩本健良(金沢大学・人文学類)と平森大規(ワシントン大学大学院・社会学研究科)と共同で、「調査票調査で性的指向・性自認を捉える—SOGI 設問の試験的調査に基づく考察」を発表した。本発表は「社会」という部会に入っていた。その他には、教育、数学・統計、政治・経済、心理・認知・情報、言語・文化、マーケティング、マーケティング・経営、教育・数学・統計、教育・医療といった部会が設けられていた。人間の行動に関して計量的アプローチの研究を行う、計量的方法の開発等に関心を持っているという共通点がある以外、専門も関心もさまざまである学会員の方々からの、自分たちの発表に対する反応やコメントを楽しみにしていたので、対面でなくてもオンライン報告ができなかったのは残念であった。

(釜野さおり 記)

第30回日本家族社会学会大会参加報告

今年でちょうど30回目を迎えた日本家族社会学会大会が、2020年9月12日(土)、13日(日)の2日間にかけて開催された。本大会は東北大学川内南キャンパスにて(仙台市)開催予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、オンラインによる大会運営となった。

自由口頭報告は33件と前回大会と比べて少なかったものの、結婚・出生・子育て・高齢期など人口問題に関わる部会が多く編成され、例年通り活発な議論がなされた。テーマセッションは、家族の多